

PM資料ガイド

項目	プロジェクト・データ・マネジメント (PDM)	Rev.	年月日	作成
		0	020331	挟間啓之
対象	一般			
視点	基本解説			

Project Data Management : プロジェクト・データ・マネジメント (PDM)

1. プロジェクト・データ・マネジメント (PDM) とは

プロジェクト関連の言葉で PDM を検索すると、Precedence Diagram Method : プレシデンス ダイアグラム法と Product Data Management が出てくる。ここではタイトルのプロジェクト・データ・マネジメントについて述べる。PDM の書籍を探したが、PMS と同様にこれぞという本が見つからなかった。そこで、いくつかの本から私が理解したことを参考に記載する。

- 1) PDM はプロジェクトマネジメント・システム (PMS) の一要素である。
- 2) PDM を単純に定義するとプロジェクトマネジメントに関連するデータベースを管理し、活用する方法である。プロジェクトに関連するデータとするとあまりにも広範囲になるので、プロジェクトマネジメントに関連するデータベースとした。このデータの共用と統合利用から得られる効果は大きく、逆にデータの消失や不正使用などは多大な損害を与えることになる。この事態を予防するためにデータのマネジメントはより重要になっている。
- 3) 現在社会において、データの有効利用者が競争の勝利者になる可能性が高い。
- 4) プロジェクトの実績データはプロジェクトのライフサイクルにわたって効果的に利用できる。
- 5) プロジェクト・データ・マネジメントはプロジェクトプロセスと同様に計画 (再利用)・遂行 (問題解決)・完了 (データの資産化) のプロセスをもつ。

1. PDM の業務

データベースを効率良く活用するためには、紙ベースから電子化することが必要である。日常の業務が効率良く、データベースとして蓄積される仕組みとなっていることも大切である。また、そのデータベース自身が利用し易い構造になっていることも必要である。この分野になると、プロジェクトマネジメント・サポート・システム (PMSS) を利用することになる。プロジェクト・データ・マネジメントを効率良くシステム的に行なうには、プロジェクト実践部隊とデータベースを管理する情報システム部隊の連携が不可欠である。ここでは、各部隊が PDM 遂行になすべき業務を列記するが、各部隊がそれぞれの業務を正しく行うことにより PDM の効果が発揮できる。

- 1) プロジェクト実践部隊
 - ・プロジェクト情報入力
 - ・変更管理のフォローアップ入力
 - ・セキュリティー管理（社外からのウイルス進入防止、データ不正使用防止）
 - ・プロジェクト完了時のデータ入力
 - ・データベース利用技術の継承等
- 2) 情報システム運用管理部隊
 - ・システム（ハードウェア）の選定・通信ライン構築・運用・保守
 - ・データベース構築・維持
 - ・セキュリティー管理（システム破壊防止、事故対策、ウイルス対策）
 - ・ソフトウェアの保守・改善
 - ・容量管理・課金管理 等

2. PDM 統合利用

PDM はプロジェクト内部のみでなく、他システムとの統合利用で効果がより増える。

- 1) プロジェクトマネジメント・データベース間の統合利用
（類似 JOB データ利用、ストックデータの再利用、データ共有、データ転送）
- 2) エンジニアリング・データベース（EX.CAE）との統合利用
（材料データ、工数データ、製品データ等）
- 3) 企業内の管理システムとの統合利用
（費用データ、勤怠データ、スキルデータ、報告データ等）
- 4) 他社の情報との統合利用
（要求データ、技術データ、参考データ、成果物等）
- 5) 過去のプロジェクト情報との統合利用
（類似 JOB データ利用、ストックデータの再利用、標準データ等）

参考文献

- 「最新のプロジェクトマネジメント・システム（PMS）に関する調査研究」
発行者：社団法人 日本機械工業連合会、財団法人 エンジニアリング振興協会
発効日：平成 5 年度
- 「プロジェクトマネジメント革新」著者：芝尾芳昭、発行者：高橋弘夫、
発行所：生産性出版、発効日：1999.6